

研究課題	気候変動に適したナシ花粉採取専用品種の選定
背景・ねらい	花粉採取における花摘みの時期は開花直前に限定され、同時期は他の作業も集中することから短期的な労力不足が発生する。これまで一部を輸入花粉に頼ることで労力の軽減が図られてきたが、火傷病の水際対策から令和6年度以降輸入花粉が利用できなくなったため、有望な花粉採取専用品種の選定が喫緊の課題となっている。また、近年は気候変動によって開花期が前進する傾向にあり、不順な天候の中でも受粉作業を行わなくてはならないというケースもあることから、比較的低温域で発芽しやすい花粉を有する品種についても検討の必要がある。
担当者名	鍋田 慎介・山澤 勉・滝沢 秀樹
研究期間	2025～（新規）

1 目的

有望と思われる品種をいくつか植栽し、採花時期、花粉採取量を調査する。また、低温での発芽率も明らかにし、昨今の気象環境に適した花粉採取専用品種の選定を行う。

2 方法

(1) 試験場所：新潟市農業活性化研究センター 露地ほ場 埴壤土

(2) 試験区の構成

供試品種：ネパール A、ネパール B、ネパール C、松島、新興、新生

(3) 試験区の規模：主枝長 3.0 m /品種

(4) 仕立て方：低樹高ジョイント仕立て

(5) 剪定方法

- ・長果枝利用型品種（松島等）は主枝から発生した1年枝を40～60 cm程度で切り返し、1年使用したら台ごと基部まで切り戻す。
- ・短果枝利用型品種（新興等）は側枝基部径が太くなったら元から切り返し、1.0 mあたり12本程度の側枝を配置する。

(6) 試験方法および調査項目

採花期、花粉採取量（主枝 3.0 m あたり）、花粉発芽率など

3 結果の概要

各品種3本ずつを4月4日に植え付け、4月9日にジョイント作業を行った。経過は良好と思われる。次年度より採花調査を実施する。

表1 側枝の出方（2月20日調査）

品 種	側枝の数 (本)	側枝総延長 (cm)	側枝長 (cm/本)
ネパールA	43.0	269.1	6.3
ネパールB	45.0	704.1	15.6
ネパールC	44.0	401.4	9.1
新 興	30.0	674.6	22.5
新 生	33.0	277.3	8.4
松 島	34.0	156.3	4.6



図1 圃場の様子（9月撮影）